

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500492		
法人名	特定非営利活動法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム 愛の郷 笠岡		
所在地	笠岡市生江浜585-1		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	令和3年 1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和2年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入所者が住み慣れた場所で安心して暮らせるように、医師との連携を図り、尊厳を大切にしながら介護を提供しています。利用者様の体調の変化に早く気づき、受診が出来る体制をとっています。2. グループホームの特長を生かして、個別対応を行い、その時の状態に合わせ、意欲を生かせるような対応を行っています。新聞折り、洗濯物畳みなどの役割を担って頂く援助の外、法人主催の文化祭に向けた作品づくりの支援も行っています。3. 感染症予防対策に努め、毎日実践しています。4. 毎月、ボランティアの先生による生け花教室を開催しています。音楽会も毎月ボランティアの先生により開催され、歌ったり打楽器でリズムを取られたりして、馴染みの音楽を楽しんで頂いています。その他にも、季節行事に合わせた企画やメニューにて季節を感じて頂き楽しんで頂けるよう取り組んでいます。移動図書のご利用を楽しみにされている方おられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道から一本入った住宅地にあり、利用者が静かに過ごせる自然豊かな環境にある。優れている点として、事業所理念について『自分が利用者なら』という視点で、事業所に望むことを挙げ、ブレインストーミングにより、職員全体で思いを共有することで、行事やレクリエーションを日々の生活に取り入れるなど具体的な取り組みに繋がっていることが挙げられる。本年度はコロナ禍の為、菊花展やコスモス畑など季節の花見や土筆採り、道通神社への初詣など、感染に配慮しながら外出支援に努めている。工夫点として、緊急避難時のトリアージ研修を活かして職員間で避難誘導の方法を工夫・共有し、災害時の利用者の安全確保に努めていることが挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念を各ユニットに掲示し、共有しています。理念・原則に沿ったケアの実践に努めています。本年10月に事業所理念についてブレインストーミングを行い更新しました。	『希望にそった対応・レクリエーションの充実・笑顔とやさしい言葉使い』という理念を事務所に掲示し共有している。『自分が利用者なら』という視点で、行いたいこと・事業所に望むことを挙げ、話し合うことで、職員の意識向上を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、総会や清掃活動等に参加しています。	散歩時に挨拶を交わしたり、管理者が町内清掃に参加している。ボランティアによるエレクトーン演奏やアーティストによるリモートコンサートの開催などを受け入れ、利用者との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や町内会等で施設見学や相談を受け付けている事をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催されています。民生委員様、利用者家族様の出席があり、様々に情報・意見交換がされて、サービス向上に役立てられています。本年3月、5月はコロナ禍の為開催中止となりました。	コロナ禍により、運営推進会議は開催困難となっている。開催時は、事業所の利用状況や活動の報告を行い、意見交換が行われている。町内のハザードマップを作成する会議に参加する機会を得た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域福祉課や長寿支援課、包括支援センターと連絡を取っており、協力関係を築いています。	管理者が窓口となり、必要時に関係のある担当課と協力関係を築いている。市が主催するコロナウイルス感染対策のオンライン研修に参加し、職員のスキルアップに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はしていません。委員会報告に基づく所内研修等にて、該当する具体的な行為について話し合い、認識を確かめています。	法人で3ヶ月毎に研修があり、事業所内に持ち帰り、勉強会を開催している。スピーチロックなど気になることがあれば振り返り、現状を共有し対策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会報告に基づく所内研修や、入社時の研修などにより虐待防止について学び、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人からの資料等を通じて学ぶ機会があり、現在も笠岡市社会福祉協議会担当者様による成年後見人の支援が行われています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みや契約時等機会ある毎に説明し、理解を図っています。改定時には家族様宛に説明文の送付も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人からの家族様へのアンケート調査の他、来訪時等、随時意見・要望を伺っており、運営に反映できる体制となっています。	利用者の要望は日常生活の中で、家族からは電話での近況報告時に意見や要望を聴いている。出された要望について検討し、可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティング等にて職員の意見・提案が検討され、業務に反映されています。	職員から出される意見や提案について、勤務体制や食材の調達・レクリエーションの内容・備品の購入等に反映させている。利用者と一緒に、あおぞら市で買い物をして喜ばれたこともあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与と年度末決算賞与、毎月処遇改善助成金交付、永年勤続者表彰があります。各自がやりがいを持って働けるよう、職場環境の整備・調整に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月所内研修を行う外、本社でのスキルアップ研修や外部研修も奨励されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社スキルアップ研修、感染症委員会、身体拘束委員会、他事業所からの応援勤務等を通じて交流の機会があり、向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時等から本人様の意向を汲み取ってサービス計画に反映させ、安心して頂き信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや入居前の面談等にて家族様等の要望等を受容の姿勢でお聞きしています。サービス計画に反映させてより良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の要望に最適な支援を見極めた上、他のサービス利用のお勧めも含めて、適切にサービスを導入出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折りや洗濯物量み等、お一人づつに合った出来る事をして頂き、共に過ごし支え合う関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や毎月の手紙で健康状態・生活状況をお知らせしています。本人様からの面会や通話希望時、必要品ある時等家族様の協力を仰いでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、友人・知人の方々の来訪時は、ゆったりと談話して頂けるよう居室への案内等おもてなしに努めています。通話支援も行っています。	希望する利用者には、家族へはがきを書く支援をしている。コロナ禍であるが、法人独自の基準に基づいた出来る限りの面会(玄関での短時間の面会)を行い、馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を考慮した環境づくりをし、合同のレクリエーションや行事への参加を支援しています。時々トラブルもありますが、孤立せず支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に情報提供し、電話や訪問の際、ご様子の確認をしています。情報提供等は何時でも応じられる事等お伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃本人様の話を傾聴し、思いや要望の把握に努めています。担当者が中心にモニタリング、アセスメントを行い、計画作成の際には本人様の意向を確認し、意向を活かした計画作成を行っています。	生活歴表を活用し、利用者のこれまでの人生を感じながら傾聴している。利用者が安心して話せるように、否定しないよう心掛けている。意向表出が困難な場合は家族等からの情報を基に、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接でまず、本人様より情報を得ます。又、家族様、サービス関係者などから情報を得て生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を通して現状を把握するように努めています。毎日の申し送り等で、職員間の情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の利用者様の状況に応じて、職員間で問題を取り上げ、検討しています。又、ご家族、医師、看護師へも連絡、情報収集にあたりサービス計画を作成しています。	ユニットごとの計画作成担当者が、3カ月毎にモニタリング、6カ月毎にカンファレンスを行い、ケアプランを見直している。状態変化があれば、その都度計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を記録に記入しています。介護や治療変更などがあればノートに記入、出勤後すぐに確認するようにしています。又申し送りでも伝えて、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	水分補給・食事形態など、その方の状況に合わせ適切なケアを検討し、お一人ずつの能力に応じた自立支援を行えるよう、サービス提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の誘いや選挙投票等、利用者様にお尋ねし対応しています。地域の行事への参加も大切にしています。毎月の移動図書館は楽しみにされ毎回ご自分で選ばれる方もおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携病院を説明し、希望により病院を決めています。提携病院により毎月訪問診療があります。緊急時は、夜間・休日にも相談援助が受けられます。歯科の訪問診療も行われています。	入居時に、協力医について説明し、本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診している。医師への相談・情報共有を目標とした医療連絡表を作成し、連携を図っている。緊急時は職員が受診同行し、必要があれば歯科の往診も受けることができ、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師配置が来ています。出勤時には利用者様の状態を伝え、連携を図って支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院が有り、必要に応じて入院が出来ます。入院期間中は、相談員の方より連絡や報告があり、早期退院に向け、調整をしています。広報日等の訪問時にも状況を伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、看取りに関する指針を説明しています。看取り介護には、身元引受人、主治医、施設立会人の同意書を交わし、看取りのプランを作成、それぞれと連携を図り支援を行います。	入居時に事業所で出来ること・出来ないことを説明し、本人・家族の同意を得ている。利用者の状態に応じて、家族には事業所や医師から、早い段階で説明を行っている。医師や看護師と連携を図りながら方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変のマニュアルにそって研修しています。迅速な対応が出来るよう本人様の急変の予測と対応をプランに反映し、緊急連絡の体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を行っています。地域推進会議の際に災害時の協力を頂けることを確認し合っています。	昼間想定で、消防署立会いの下、火災避難訓練・消火訓練を実施している。緊急避難時のトリアージの研修から、避難区分表を作成し居室の表札に目印を取り付け、避難対応を明確にして利用者の安全確保に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレドアは閉めて介助、訪室時はノックをしています。見守りが必要な方には家族様に了解を得て、ドアを開けての見守りをさせて頂いています。研修等で認知症介護の原則を斉唱し自尊心を傷つけない言葉かけの実践に努めております。	利用者一人一人の特性・性格を把握し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。気になることがあれば、ミーティング時に話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをして意向を確かめてから、行動に移すように心がけております。自己決定できるように、声かけしています。受容の姿勢で傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の状況やペースに合わせて希望に沿うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は洗面、整髪等を本人様のADLに応じて支援しています。入浴後の着替えは、できる方には、自分で選んでいただくようにしています。その日の気温により、服の調節をしています。フェイスクリーム等の購入支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはテーブルやお盆拭きコップ洗いをして頂いています。メニューには利用者様の好みや行事食を採り入れ、食事を楽しんで頂けるよう支援しています。	土用の丑の日のうなぎ丼や誕生日会の手作りケーキなどの行事食で食事を楽しむ支援をしている。庭を活用して、お好み焼きやおにぎりパーティも開催している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分の摂取量はチェック記録しています。嚥下困難の方にはとろみ剤など使用。状態に応じた食事形態にて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアでは、声掛けや、仕上げ磨き介助、ハミングッドの使用等、本人様の力に応じた支援をしています。歯科受診希望者様には、往診で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録チェック表を使用、排泄パターンの把握に努めています。失禁の少ない方には、布パンツを使用して頂き、排泄の自立に向けた支援を行っている。	記録により個々の排泄パターンを把握すると共に、表情や仕草などから察知・誘導することにより、トイレでの排泄を支援している。毎日のテレビ体操やスクワットを促し、立位保持などの身体機能維持に努めている。夜間は利用者個々に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には、牛乳を提供するようにしています。頓服を使用する事もありますが、食事と水分の摂取量を適度に確保して頂けるよう努めています。又、体操も習慣的に行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間での対応は難しいですが、その方の体調や希望に合わせて曜日や順番を柔軟に調整し、入浴していただいています。	週2回、職員と1対1で会話を楽しみながら入浴している。入浴を嫌がる利用者には無理強いないで入浴日を調整している。利用者によっては足浴や清拭で対応するなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間により、その日の体調に合わせて休息していただいています。居室温度も随時調節しています。日中のリハビリ体操も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルに収め情報共有できるようにしています。薬変更等、ノートに記入し申し送り、間違いのないようにしています。変更後の状態等を共有し往診時に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む、新聞を折る等役割を持っています。手芸や読書、歌謡のDVD鑑賞等一人づつが楽しみを持てるように支援しています。また、文化祭への作品作りの支援も、利用者様の出来る事や好みを把握し行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった時は、電話連絡をされ、家族様の協力を得て外出をされています。お花見や、神社に初詣、ドライブも行い、天気の良い日には日光浴や散歩も支援しています。	コロナ禍のため、家族の協力は困難であるが、菊花展やコスモス畑など季節の花見やつくしとり、道通神社への初詣など外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお小遣いを預かっており、希望や必要に応じて代理購入を行っています。現金を一部自己管理される方もおられます。市内の青空市へ外出、買い物して頂くこともありました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話していただいています。手紙での通信を望まれる方にははがき購入や、投函の支援も行っています。年賀状は、毎年利用者様から、ご家族様に出して頂くように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕の笹と短冊など季節に因んだ飾りつけをしています。行事や誕生日会等の写真もホール等に飾り楽しんで頂けるようにしています。	明るく広いリビングには中央に大きなテーブルがあり、そこを囲んで利用者は談笑をしている。大きな窓からは景色が見渡せ、暖かい光が差し込み、くつろぎの空間となっている。花が所々に飾られ、壁には職員と利用者の季節を取り入れた作品が展示してある。	トイレや浴室の床など生活空間の整備を行い、利用者にとって安全で快適な暮らしの場を整えることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを用意し、日光浴をしながら、ゆっくり過ごしていただけるようにしています。テーブル席は気の合う方と過ごせる様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、なじみの品の持参をお願いしています。ご家族の写真や仏壇など持参されておられます。安心して過ごしていただける様に心がけています。	明るく広い居室には、仏壇や筆筒・テレビ・写真など利用者使い慣れたものや思い出の品々が持ち込まれている。個々のこれまでの生活環境が活かされ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の区別がつかない方の為、自室前にはプレートを飾っています。トイレは分かり易い様に大きく表示しています。廊下等に手すりが多く設置されています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	浴室に床の剥がれが随所にある、見た目にも老朽化している。	貼り替えにより、床の剥がれ等をなくし、見学等外部の方に見てもらって差し支えないようにする。	既に本社より内装業者さんに修理依頼をしてもらっているが、再度依頼を行う。	6ヶ月
2	52	Bユニット南トイレの引き戸が故障し、代わりにカーテンが使われていた。利用者様によってはそのトイレの使用を避けられる事があった。	引き戸を修理し、プライバシーが十分守られるようにする。	昨年11月に修理を行いました。	1ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()